

特集

市政

長崎市民

フ
レ
ゼ
ン
ト

生活情報

健康

子育て

福祉

被爆者援護

講演・講座

もよおし

おしらせ

募集

未来のまちを「そらぞら」に創造する

想像

創造



平和公園



長崎駅前広場（整備イメージ）



ししとき川通り



西坂公園



出島表門橋（整備イメージ）



まちづくりワークショップ（深堀地区）



岩原川

最近、長崎のまちの中で、ちょっとしたところが何となく変わってきたことに気がきませんか？

人々の思いや暮らしを大切にしたり、多くの人が計画づくりから参加したりするなど、新しいまちづくりが始まっています。

ここでは、さまざまな場所でまちをそらぞら【創造】「想像」する取り組みを紹介します。

- まちづくり推進室 ☎829・1177
- まちなか事業推進室 ☎829・1178
- 土木維持課 ☎829・1164
- みどりの課 ☎829・1171

未来を丁寧に編み上げ、まちの魅力を高める

これからの長崎のまちづくりを進める上で大切な点について、長崎市景観専門監の高尾忠志さんに話を伺いました。



高尾 忠志 さん

九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター 准教授。平成25年4月から長崎市景観専門監として、大型公共施設の総合的なデザイン調整や技術系職員の意識と技術の向上などに取り組んでいます。

対話と共有により

「ふさわしさ」を築く

まちづくりにおける「ふさわしさ」は市民、行政、専門家、地域外からの応援団などが、対話、共有しながら築いていくものだと思います。「積み重ね」への意識はその有力な根拠になります。

一人ひとりが地域全体の過去と未来を考えながら公共事業に関わり、整備されたモノをまちづくりに活かしていくことで、地域のコミュニティとしての力が高まるのが理想だと思います。

長崎のまちに「ふさわしい」

公共事業に挑む

「長崎ならではの」暮らし方、働き方、過ごし方を、みんなで考え、表現することが、これからの長崎市のまちづくりの基本です。

「長崎ならではの」に「とことんこだわると、そのこだわりが共感呼び、活動や交流が生まれ、それらが地域の経済や文化を活性化化する土壌となります。」

長崎市では、今、出島表門橋架橋や長崎駅周辺の再整備などの公共事業が一斉に動き、まちの形が大きく変わる時期を迎えています。

私は、こつした公共事業が長崎のまちにふさわしいものとなるように「景観専

門監」として参加しています。

まちの「積み重ね」に思いを寄せる

長崎のまちには、これまで暮らし、訪れた人のたくさんの思いや営みが積み重なっています。「景観」はその積み重ねのあらわれであると言えます。

長崎のまちにふさわしい公共事業を実現するには、まずこの「積み重ね」に思いを寄せることが重要です。そして「積み重ね」の延長線上にある「未来」を考えることが「景観に配慮する」ということの基本です。

景観は「見た目」だと思われがちですが、景観としてあらわれている人々の思いや営みを意識する感覚が重要です。

ししとき川通りの道路改修の

事例から

平成25年度に、まちなかにあるししとき川沿いの道路改修のデザインに取り組みしました。

昭和34年の写真には石畳の道で遊ぶ子どもたちが写っています。こうしたかつての風景をもとに、平成22・23年度に地域の未来について住民の皆さんと市が話し合い、石畳を復活させることとな



ししとき川通りの風景（昭和34年）



ししとき川通り（右：整備前、下：整備後）歩行者がまち歩きを楽しめるよう、石畳を復活させるとともに、横断歩道部分も石畳と調和した素材や色に変更しました。



まちの「積み重ね」に思いを寄せる

まちづくりでは、平和への祈りやまちの歴史などこれまで積み重ねてきた思いや営みを生かしながら、新しい価値を加えていく視点が大切です。ここでは「積み重ね」を生かしたまちづくりの事例を紹介します。

平和公園

平和公園の祈念像地区と原爆落下中心地碑のある地区（中心地地区）との間には交差点や建物があったため、これまでつながりがあまり感じられませんでした。そこで、平成23・24年度の祈念像地区の公園へのエスカレーターや歩道の整備に続き、平成25年度に、松山交差点から中心地地区への入口部分の整備を行いました。

平成6年に作られた平和公園再整備基本計画では、中心地地区は、原爆落



被爆のイメージを同心円状に並べた板石で表現したほか、中心地から被爆遺構がある城山小学校へ方向に板石とプレートを配置することで、原爆落下の史実を物語る空間を表現しています。

下の史実を伝える空間、そして、原爆によって亡くなられた人々の冥福と平和を祈る空間と位置づけられていました。

そのため、今回の整備では、入口付近の大き木をあえて切らずに残すなど、中心地区の「祈りのゾーン」としての静かな空間が損なわれないような整備を行いました。

また、原爆落下中心地碑を中心として薄い赤色の板石を同心円状に並び、被爆のイメージを表現しました。

今回の整備で、利便性や安全性が高まるとともに、平和公園に対する原爆や祈りのイメージがさらに深まりました。

西坂公園

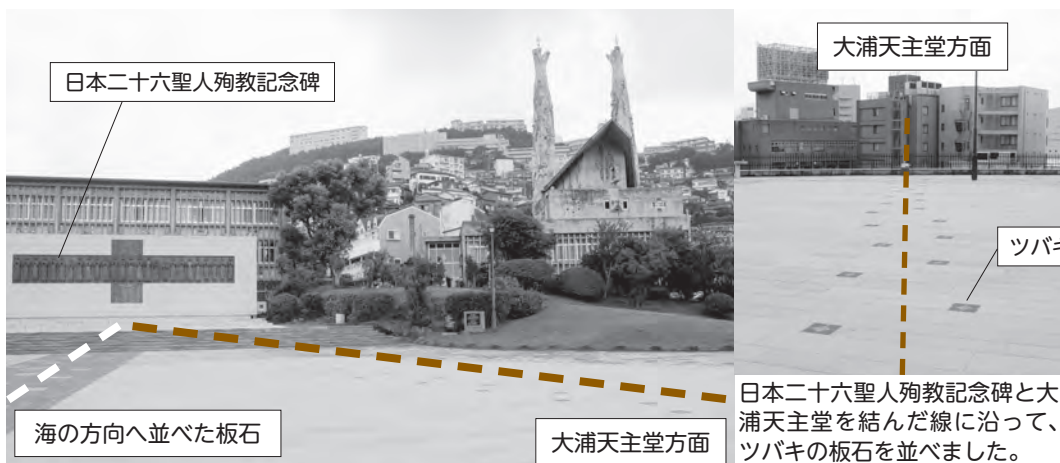
平成26年度に、観光資源としての活用や来園者の利便性の向上を目的として、西坂公園の再整備を行いました。

西坂の丘には、1997年に26人のキリスト教徒が殉教した歴史があります。

昭和37年に西坂公園内に日本二十六聖人記念館が開設され、日本二十六聖人殉教記念碑が設置されました。西坂公園の再整備にあたっては、こうした歴史的な経緯を考慮することとしました。

世界遺産候補でもある大浦天主堂は、日本二十六聖人に捧げられた教会堂です。西坂公園を訪れた市民や観光客に、長崎の歴史の中で重要な大浦天主堂と日本二十六聖人との関係性に気づいてもらうため、日本二十六聖人殉教記念碑と大浦天主堂を結んだ視線に沿って、ツバキをデザインした板石を並べました。また、日本二十六聖人が見つめていた海へ方向を板石で表現しました。

そのほか、つつそうとしていた樹木を整理するなど、人々が利用しやすい明るい雰囲気となるよう心がけて整備しました。



日本二十六聖人殉教記念碑と大浦天主堂を結んだ線に沿って、ツバキの板石を並べました。

対話と共有により「ふさわしさ」を築く

よりよいまちづくりを進めるため、計画段階から市民の皆さんと一緒に進めて行なうまちづくりが始まっています。

岩原川の水辺づくり

旧恵美須・大黒市場跡を整備

立山から長崎駅付近まで流れる岩原川では、平成24年度に老朽化に伴い川の上にあった旧恵美須・大黒市場を解体し、約半世紀ぶりに水面が現れました。

岩原川周辺は、長崎駅と歴史や文化の中心地であるまちなかを結ぶ重要なエリアです。この貴重な都心の水辺である岩原川を活用した環境整備を行うにあたり、実際に水辺を利用する市民の皆さんと一緒に整備の方向性を考えていくこととしました。

10年後の目標をみんなで考える

岩原川周辺のまちづくりを考えるワークショップ（話し合い）を平成26年度に5回開催しました。

周辺の住民のほか岩原川に関心のある大学生や一般市民の皆さんが参加し、「石原川エリアみらい計画（10年後の目標）水と緑と賑わいのある都心のオアシス」を作成しました。

この基本計画をもとに、岩原川周辺の道路整備などを進めています。



岩原川周辺の整備イメージ

市民に長く愛される環境づくり

岩原川周辺の道路の設計についても、周辺住民の皆さんと意見交換をしながら進めています。

少しでも「オアシス」となるよう、川岸に草や木を植えています。また、通過する車のスピードを抑えるため舗装を蛇行させたり、夜でも安心して歩くことができるように手すりに照明を付けたりするなどの工夫をしています。

最近では、清掃活動やイベントなども開催されるようになり、岩原川の水辺が人々に愛されるものになってきています。水辺づくりから賑わいづくりへ、これらが楽しみですね！



岩原川のワークショップに参加した

たけし
荒川 剛 さん
(恵美須町自治会長)

川が憩いの場になればと思い、5回全てのワークショップに参加しました。

草や木を植えて緑を増やすなど、ワークショップで出てきたアイデアが実際の整備に生かされてうれしかったです。

また、地域外からの参加者も多く、会議だけでなく川の清掃も一緒に行ってくれて、本当にありがたかったです。

今回の岩原川のように、みんなで話し合いながら整備を進めていくことが、長崎の他の地域にも広がっていくといいですね。



川沿いに新たに整備された歩道



七夕の日で開催された「水辺で乾杯」イベント

深堀地区の景観整備

地域住民、大学、市が協働して

「景観まちづくりガイドライン」を作成

市内で唯一武家屋敷があった深堀地区では、地域の皆さんにより平成8年に「深堀地区まちづくり推進協議会」が設立され、まちづくりに関する活動を行ってきました。

平成24年に深堀のまちなみが景観形成重点地区に指定されたことがきっかけで、まちづくり推進協議会と長崎大学、長崎市が協働して、平成25年度に景観に関するルールを定めた「景観まちづくりガイドライン」を作成しました。

話し合いで土地の活用策をとりまとめ

武家屋敷敷地にある深堀県警アパートが廃止され、市が跡地の整備を行うこととなりました。この場所は市指定の景観重要建造物「樋口家表門及び石堀」の向かいにある景観上大切な場所でした。そこで、平成26



深堀地区の景観形成重点地区



さまざまなアイデアが出されたワークショップ

年度に、地域の皆さんとともにワークショップにより跡地活用の検討がなされることとなりました。

4回のワークショップの中で、以前あった石堀の復元や、県警アパート跡地と隣接する深堀支所との間に人が通れる橋を架けるなどのアイデアが出されました。これらのアイデアは、跡地活用の基本計画に盛り込まれました。

ワークショップで活躍したのが学生の皆さんです。少人数のグループに分かれて話し合いをする際には、長崎大学や九州大学の学生らが調整役を務めてくれました。彼らは回を重ねるごとに地域に溶け込み、活発な意見交換に貢献してくれました。

深堀県警アパート跡地では、広場などを整備するため、今年度に設計、来年度に工事を行う予定です。引き続き、地域の皆さんと意見のキャッチボールをしながら整備を進めていきます。



深堀地区のワークショップに参加した大学院生

安部 知佳子さん 貢 宏美さん

深堀の人たちのまちへの熱い思いに刺激を受けつつ、皆さんに支えてもらいながら何とか意見をとりまとめることができました。今回の取り組みを通して、深堀のまちなみの魅力を多くの人にアピールできるといいですね。

暮らす人も、訪れる人も 心地よいまちへ

今回紹介したまちづくりの事例は、何だか雰囲気いいよね、気持ちがいいよね」と感じてもらえるような工夫を重ねたものです。

景観には、まちの魅力を発信するチカラがあります。よい景観を作るといことは、まちにもともとある魅力を分かりやすくしたり、隠れた個性を引き出し、発信したりする取り組みなのです。

ワークショップなどの話し合いへの参加以外でも、例えば、軒先にさりげなく季節の花を植えるようなちょっとした心遣いで、まちの印象は良くなっていくと思います。

私もまちを良くするメンバーの一人だ」という当事者意識の高い人が多いまちは活気にあふれています。ぜひ、できることから、長崎をすてきにするに参加してもらえたらと思います。

あしたのまちは私がつくる 都市景観賞作品募集

【対象】市内の建築物やまちなみなど
 【応募期間】10月16日(金)必着
 【応募方法】市内各所で配布する応募用紙、FAX(829-1175)、市ホームページにて受け付け。
 【問い合わせ】まちづくり推進室 (☎829-1177)



スマートフォンでも応募できます!!